溝上慎一の教育論（動画チャンネル） No300
（新著の紹介）

# ミネルバ大学を解剖する
## －コアコンピテンシーを自身のツールとして徹底的に身につける教育－
## 松下佳代先生（京都大学大学院教育学研究科 教授）


溝上　慎一　　Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長
桐蔭横浜大学 教授

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問
東京大学大学院教育学研究科 客員教授

http://smizok.net/
E-mail　mizokami@toin.ac.jp


【プロフィール】1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、講師、准教授、2014年教授を経て2018年に桐蔭学園へ。桐蔭横浜大学学長（2020-2021年）。京都大学博士（教育学）。
＊詳しくはスライド最後をご覧ください


※本動画チャンネルは溝上が個人的に作成・提供するものです。
※公益財団法人電通育英会の助成を受けて行われています。

※本動画では字幕を付けていませんので、必要な方は「設定」で「字幕オン」にしてご利用ください。

（ご紹介）

松下佳代
まつした　かよ

京都大学大学院教育学研究科 教授

京都大学博士（教育学）。群馬大学教育学部助教授、
京都大学高等教育研究開発推進センター 教授を経て、
2022年10月より現職

- 専門は、教育方法学（特に、 能力論、学習論、評価論）、大学教育学。大学や中学校・高校をフィールドに、研究と実践支援を行っている。
- 主著に、『対話型論証による学びのデザイン』（勁草書房, 2021）、『ディープ・アクティブラーニング』（勁草書房, 2015, 編著）、『〈新しい能力〉は教育を変えるか』（ミネルヴァ書房, 2010, 編著）など。
- 現在、大学教育学会会長、日本カリキュラム学会代表理事、中央教育審議会大学分科会臨時委員、日本学術会議連携会員などを務めている。

**No276** 新著の紹介

# アメリカ高等教育の発展・課題を知りたければ『ミネルバ大学の設計書』

# 高等教育の最先端がここにある！

松下佳代先生（京都大学教育学研究科教授）

溝上慎一の教育論「動画チャンネル」（基本的に毎週水・土に配信しています）

松下佳代（編）（2024）. ミネルバ大学を解剖する　東信堂

序章　ミネルバ・モデルとは何か
第1章　目標とカリキュラム
第2章　学習評価
第3章　授業法
第4章　準正課・課外活動
第5章　教職員
第6章　学生からみたミネルバ―長期的インタビューを通じて―
終章　ミネルバ・モデルの日本の大学へのインパクト
付論　ミネルバ・プロジェクトの動向

それではご覧ください

Kyoto University Graduate School of Education
Higher Education Studies Course

書籍紹介

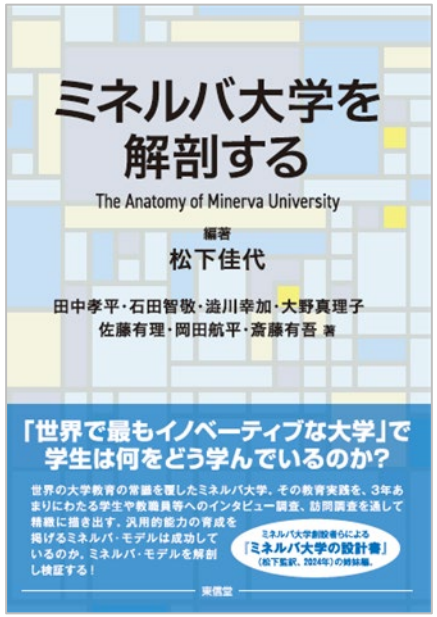
# 『ミネルバ大学を解剖する』

松下　佳代

京都大学大学院教育学研究科

matsushita.kayo.7r@kyoto-u.ac.jp

# ミネルバ大学についての2冊を刊行！




コスリン, S. M., & ネルソン, B.（編）（2024.3）『ミネルバ大学の設計書』（松下佳代監訳）東信堂.

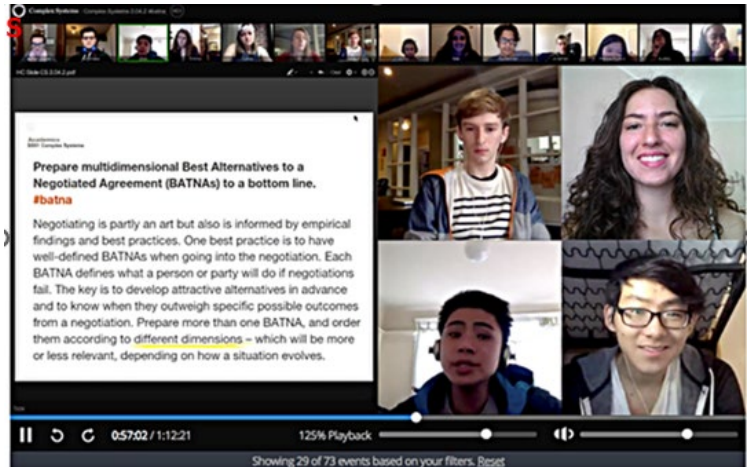
松下佳代（編）（2024.9）『ミネルバ大学を解剖する』 東信堂.

# ミネルバ大学（Minerva University）

- ミネルバ大学（2012年設立）

「世界で最もイノベーティブな大学」（2022～2024）

- アメリカの小規模リベラルアーツ大学（1学年150名程度）
- 世界の7都市を移動しながら学習
  - SF→ソウル・ハイデラバード→ベルリン・ブエノスアイレス→ロンドン・台北
    ＊近く、4都市に変更（SF・東京＋2都市がコア都市に）
- 都市をキャンパスにした活動
  （Project-BL、Community-BL、インターンシップなど）
- フルオンラインでの少人数アクティブラーニング
  （1クラス19人以下）
- 学びの成果と軌跡を可視化する評価
- 世界中に散在する教員、現地に居住する職員
- ユニークなアウトリーチ活動による学生獲得




© 2021 - Ari Bader-Natal（https://aribadernatal.com/projects/Minerva/）

コスリン, S. M. & ネルソン, B.（編）（2024）『ミネルバ大学の設計書』（松下佳代監訳）東信堂.

# ミネルバ大学設立の意図

- アメリカの高等教育の抱える問題

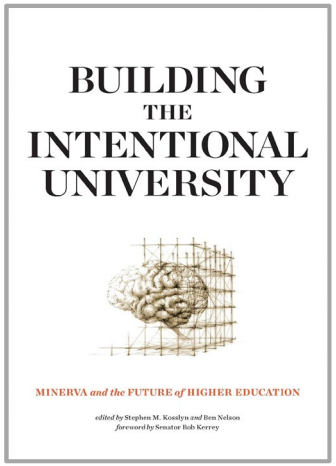
①大学が、卒業後の社会や生活に対して準備できた状態にまで学生を育てられていないこと

②大学教育があまりに高額になり、ほとんどの学生が負債を抱えて卒業していること

③半数以上の学生が卒業できておらず、卒業できたとしても十分、授業に関与できていないこと

④入学者選抜において、国籍、人種、社会経済的地位、レガシー（卒業生の近親者）など、本人の能力以外の要因で定員枠が設けられていること

ミネルバ大学は、
これらを問題を解決し、世界のリーダーを
育成するために、
自分たちの設定した原理・原則にしたがって、
意図的に、ゼロから立ち上げた大学




□ Kosslyn, S. M., & Nelson, B. (Eds.). (2017). *Building the intentional university: Minerva and the future of higher education*. The MIT Press.

# 大学のミッションと目標

- ミッション
  - 「世界のために批判的な知恵（critical wisdom）を涵養する」
- 最上位の目標
  - 実践知（practical knowledge）の育成
- 目標とカリキュラム・学習活動
  - 正課教育（オンライン授業）
  - ＋
  - 準正課・課外活動（経験学習）

} ハイブリッド学習

## 【正課教育】

一般教育
（1年次）

＋

専門教育
（2･3･4年次）

汎用的能力
(コア･コンピテンシー
➔HCs＊)

専門分野の知識･スキル

批判的思考 #

創造的思考 #

効果的
コミュニケーション

効果的
インタラクション #

約80個

人文学

コンピュータ
科学

自然科学

社会科学

ビジネス

シニア･チュートリアル
キャップストーン･プロジェクト

＋

## 【準正課･課外活動】

- 世界の7都市を移動しながら、多国籍の学生たちと寮生活
- 正課の授業で習得したコア･コンピテンシーとHCsを、正課の授業だけでなく、滞在都市での多様な他者との協働による準正課活動の中でも活用していく

＊**HCs**＝habits of mind & foundational concepts
（知の習慣と基本的概念）

# HCsとは

- HCsはミネルバの中核
  - 4つのコア・コンピテンシーを具体化したものとして、約80個のHCsを抽出
    ＊たえず更新（当初は114個）
- HCsの例

  #correlation （相関関係と因果関係を区別する）
  #gapanalysis （創造的な解決がどこで必要とされるのかを明らかにするギャップを特定する）
  #algorithms （現実世界の問題を解決するためにアルゴリズム的な方略を適用する）
  #audience （文脈や相手にあわせて口頭や文書での表現の仕方を変える）
  #nudge （他者の決定を「ナッジ」する）
- どのように学ぶのか？
  - 1年次には、ビッグクエスチョンを通じて学ぶ
    （例）「「どうすれば世界の人々に食料を供給できるか？」
  - 3年間活用しながら（＝転移させながら）、学び続ける

汎用的ではあるが、脱文脈的ではない

| Personal | | |
|---|---|---|
| **Thinking Critically**（批判的思考） | Evaluating Claims（主張の評価） | #interpretivelens<br>#context<br>#critique<br>#plausibility<br>#testability<br>#estimation |
| | Evaluating Justification（正当化の評価） | #evidencebased<br>#sourcequality<br>#deduction<br>#induction<br>#fallacies |
| | Analizing Data（データの分析） | #descriptivestats<br>#probability<br>#distributions<br>#confidenceintervals<br>#correlation<br>#regression<br>#significance |
| | Analizing Decisions（決定の分析） | #psychologicalexplanation<br>#purpose<br>#utility<br>#biasidentification<br>#biasmitigation<br>#expectedutility<br>#decisiontrees |
| | Analizing Problems（問題の分析） | #rightproblem<br>#breakitdown<br>#gapanalysis<br>#variables<br>#gametheory |
| **Thinking Creatively**（創造的思考） | Facilitating Discovery（発見の促進） | #hypothesisdevelopment<br>#dataviz<br>#modeling |
| | Applying Research Methods（研究方法の適用） | #observationalstudy<br>#interventionalstudy<br>#casestudy<br>#interviewstudy<br>#studyreplication<br>#controlgroups<br>#sampling |
| | Solving Problems（問題の解決） | #scienceoflearning<br>#analogies<br>#constraints<br>#heuristics<br>#algorithms<br>#optimization<br>#designthinking |

| Interpersonal | | |
|---|---|---|
| **Communicating Effectively**（効果的コミュニケーション） | Using Language（言語の使用） | #professionalism<br>#thesis<br>#organization<br>#composition<br>#connotation<br>#audience |
| | Using Nonverval Communication（非言語コミュニケーションの使用） | #medium<br>#expression<br>#communicationdesign<br>#multimedia |
| **Interacting Effectively**（効果的インタラクション） | Interaction Within Complex Systems（複雑系の中でのインタラクション） | #multipleagents<br>#levelsofanalysis<br>#emergentproperties<br>#multiplecauses<br>#networks<br>#systemdynamics |
| | Negotiating and Persuading（交渉と説得） | #negotiate<br>#nudge<br>#carrotandstick<br>#cognitivepersuasion<br>#emotionalpersuasion<br>#confidence |
| | Working with Others（他者との協働） | #leadprinciples<br>#powerdynamics<br>#srategies<br>#differences<br>#comformity<br>#selfawareness<br>#emotionaliq<br>#responsibility |
| | Resolving Ehical Problems（倫理的問題の解決） | #ethicalframing<br>#ethicalconflicts |

# HCsのリスト

□ 松下佳代編（2024）『ミネルバ大学を解剖する』東信堂, 21-22.

# 汎用的能力の育成の可能性

- 汎用的能力
  ＝分野や場面を問わず、広い適用性をもつ能力
  - 代表的なものに、4Cs（critical thinking, creativity, communication, collaboration）

- 否定的な見方
  - 汎用的能力は存在しうるのか？
  - 汎用性を支える転移は可能か？
  - 汎用的能力の育成・評価は可能なのか？

【例】
「教育可能性の極めて低い目標」を立て、大学教育を「ごっこ」遊びに変えてしまっている（鈴木, 2017）

- 肯定的な見方
  - 遠い転移を規定する要因の分析と育成可能性（Barnett & Ceci, 2002）

⇩

ミネルバ大学の挑戦
- どうやって育成しようとしているか？
- それは成功しているのか？


- 鈴木宏昭（2017）「教育ごっこを超える可能性はあるのか？ー身体化された知の可能性を求めてー」『大学教育学会誌』39(1), 12–16.
- Barnett, S. M., & Ceci, S. J. (2002). When and where do we apply what we learn? A taxonomy for far transfer. *Psychological Bulletin, 128* (4), 612–637.

# インタビュー調査と訪問調査

- インタビュー調査
  - 計35回
  - 計25名（学生、教職員3名、関係者2名）

＊学生のうち4名については、約3年間、縦断的インタビューを実施

- 訪問調査
  - ブエノスアイレス
    - 授業観察
    - City Experienceの参与観察
    - インタビュー
  - 台北
    - インタビュー

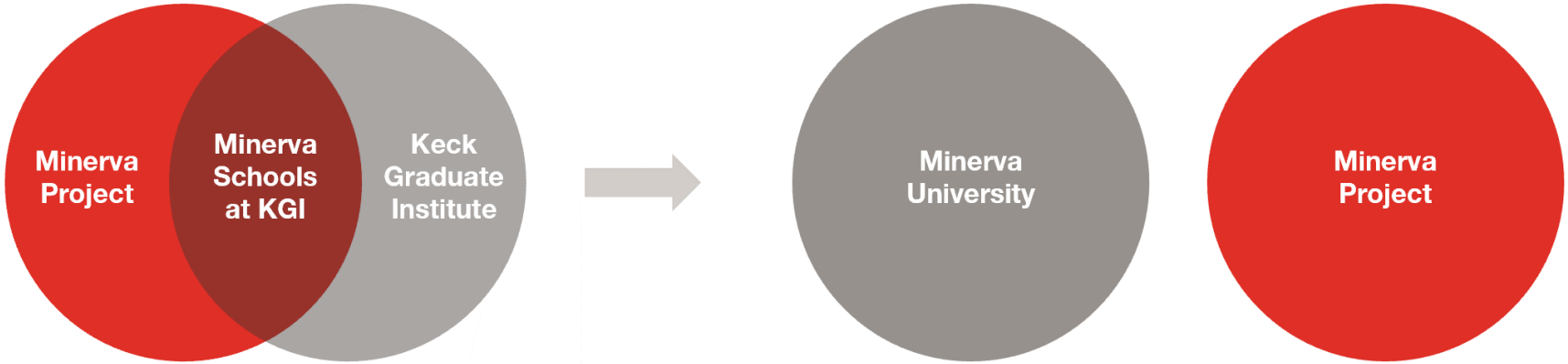
- 学生から見たミネルバとは？
- 学生は4年間でどう学び、成長したのか？

# 内容


- 序　章　ミネルバ・モデルとは何か　（松下佳代）
- 第1章　目標とカリキュラム　（田中孝平）
- 第2章　学習評価　（石田智敬）
  - 【コラム】評価情報の集約によるプログラムレベルの学習成果の得点化　（斎藤有吾）
- 第3章　授業法　（大野真理子・澁川幸加）
- 第4章　準正課・課外活動　（佐藤有理・大野真理子）
- 第5章　教職員　（岡田航平・大野真理子）
- 第6章　学生からみたミネルバ―長期的インタビューを通じて―
  （田中孝平・大野真理子・岡田航平・石田智敬）
  - 【エッセイ】ミネルバ大学訪問記―ブエノスアイレス調査―　（松下佳代・石田智敬）
- 終章　ミネルバ・モデルの日本の大学へのインパクト　（松下佳代）
- 付論　ミネルバ・プロジェクトの動向　（松下佳代、田中孝平）

# 【参考】ミネルバ大学とミネルバ・プロジェクト

- ミネルバ大学（非営利教育機関）
  - Minerva Schools at KGI： 2012年設立、2014年開校
  - Minerva University： 2021年改称
- ミネルバ・プロジェクト（営利教育企業）
  - ミネルバ・モデルの普及、拡張




□ Ross, K. (2021). Transformational learning. 第28回大学教育研究フォーラム発表資料, 2022年3月16日.

# 日本の大学へのインパクトは？

- アメリカの高等教育の抱える問題（再）

①大学が、卒業後の社会や生活に対して準備できた状態にまで学生を育てられていないこと

②大学教育があまりに高額になり、ほとんどの学生が負債を抱えて卒業していること

③半数以上の学生が卒業できておらず、卒業できたとしても十分、授業に関与できていないこと

④入学者選抜において、国籍、人種、社会経済的地位、レガシー（卒業生の近親者）など、本人の能力以外の要因で定員枠が設けられていること

- 日本の大学教育の問題
  - ④以外は、多かれ少なかれ日本の大学にもあてはまる（とくに①）
  - では、ミネルバ大学の試みは、日本の大学にどのようなインパクトを与えうるか？

# すでにみられる影響

- 高等教育政策
  - 大学設置基準の改正（2022.9）
    - 「教育課程等に関する特例制度」
      （例）「遠隔授業の60単位上限」「校地・校舎面積基準」などの適用除外
- 大学
  - 通信制大学
    - ZEN大学：　オンライン授業＋地域・企業と連携した課外プログラムなど
    - さとのば大学：　別大学の通信教育課程＋地域を巡りながらPBL
  - 通学制大学
    - 清泉女子大学地球市民学科：
      「101のコンセプト」

コンセプトの一部（大学HPより抜粋）

# ミネルバ・モデルとは何か

- 大学教育の各要素でのイノベーション
  - 授業、ICT活用、キャンパス（グローバル・ローテーション）、目標とカリキュラム、入学者選抜、学習評価、学費、教職員・・・
- これらの要素が相互に関連してつくられた一つの系（まとまり）＝ミネルバ・モデル
  - 中核は、HCsを軸として構成されたカリキュラムと、オンライン学習（アクティブラーニング）と経験学習のハイブリッド学習

    ←Minerva Projectによる他の大学、高校教育、企業研修への拡張
  - ミネルバ・モデルは「系」をなしているので、ある要素だけを抽出したり改変したりすることが、系の他の要素に影響を及ぼす
    - フルオンラインのアクティブラーニング　←身体性を伴った交流や経験
    - 旅する大学　←同学年の学生集団によるコミュニティ

# 導入における潜在的な問題点

- 1. 汎用性（広さ）の偏重
  - HCsと各専攻での学習成果（LOs）によって、「広さと深さの両立」が目指されているが、広さ（遠い転移）に焦点がおかれすぎという声も
- 2. 分野による適合性の違い
  - 日常的に教員や上級生たちとともに、実験やフィールドの経験を積むといったことはできない
- 3. 教員の機能分化
  - 教育専念、任期付き（最長6年）
  - 教育と研究の両立を図りたい教員、雇用流動性の低い日本社会には適用しがたい
- 4. 大学のビジネスモデル
  - 「適応」に重き（ただし、「創造」を含むより広い意味での「適応」）

# ミネルバから何を学ぶか

- ミネルバ大学
  - アメリカの高等教育の抱える問題に対し、常識（キャンパス施設、対面授業、高額の学生ローン、属性による定員枠など）を問い直して、大学を構成するそれぞれの要素を見直し、テクノロジーの力を最大限に活用して「新結合」（＝イノベーション）を創り上げた

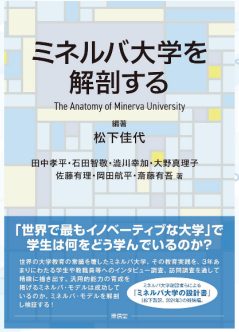
- 日本の大学
  - 表面的・部分的な模倣にとどまらず、大学教育の常識を問い直し、自分たちならではの新結合を生み出すことにつなげる

基盤研究（B）「コンピテンシーの形成・評価の検討―統合性・分野固有性・エージェンシーに着目して―」
（22H00965，23K22236，研究代表者 松下佳代）主催

# 『ミネルバ大学を解剖する』出版記念シンポジウム
## ―汎用的能力は育成可能か―

### 概　要

松下佳代編著（2024）『ミネルバ大学を解剖する』（東信堂）※は、世界の大学教育の常識を覆したミネルバ大学の教育実践を、3 年あまりにわたる学生や教職員等へのインタビュー調査、訪問調査を通して精緻に描き出したものです。本シンポジウムではその出版を記念して、著名な高等教育研究者とミネルバ大学の卒業生をゲストとしてお招きし、汎用的能力の育成を掲げるミネルバ・モデルを執筆者とともに検討しながら、汎用的能力が育成可能かを探っていきます。
※ミネルバ大学創設者らによる『ミネルバ大学の設計書』（松下監訳、2024 年）の姉妹編。




### プログラム

**13：30～　受付開始**
**14：00～　開会挨拶**
　**松下佳代**（京都大学大学院教育学研究科教授）
**14：05～　話題提供**
（休憩 10 分）
**15：15～　卒業生の声**
　**梅澤凌我**（ミネルバ大学 2023 年卒業、ビジネス専攻）
　**西澤亮音**（ミネルバ大学 2023 年卒業、人文学専攻）
モデレーター：**石田智敬**（神戸大学大学院人間発達環境学研究科特命助教）
**15：35～　指定討論**
　**小原優貴**（東京大学教育センター准教授）
　**溝上慎一**（桐蔭学園理事長）
**16：00～　パネルディスカッション**
**16：40　　まとめ・閉会**

### 話題提供

**「概要，目標（汎用的能力）」**
　**松下佳代**（京都大学大学院教育学研究科教授）
**「カリキュラム」**
　**田中孝平**（北海道大学高等教育推進機構高等教育研究部助教）
**「学習評価」**
　**石田智敬**（神戸大学大学院人間発達環境学研究科特命助教）
**「授業法」**
　**澁川幸加**（中央大学文学部特任助教）
**「準正課・課外活動」**
　**佐藤有理**（アメリカ・カナダ大学連合日本研究センター准教授）
**「教職員」**
　**大野真理子**（東北大学高度教養教育・学生支援機構講師）

司会：**斎藤有吾**（新潟大学教育基盤機構准教授）

**日　時**　**2024年12月1日（日）14：00～16：40**

**場　所**　**中央大学茗荷谷キャンパス 2E08教室（東京都文京区大塚1丁目4－1）**

**参加費**　**無料**　　**定　員**　**100名（事前参加申込制）**

**お申込み方法**
11月25日(月)までに以下のwebページ、
または右のQRコードからお申し込みください。
https://forms.gle/heo1SvwN9sGzMf659

**お問い合わせ**
『ミネルバ大学を解剖する』
出版記念シンポジウム事務局
田中孝平（北海道大学高等教育推進機構 助教）
tanaka.kohei［at］high.hokudai.ac.jp

- 日時：12月1日（日）14:00～16:40
- 場所：中央大学茗荷谷キャンパス
  ＊対面のみ
- 詳しくは・・・・・・・
- お申し込みは・・・

11月25日（月）まで

溝上先生も指定討論で登壇されます。
ぜひふるってご参加ください。